

リサーチ・アドミニストレーターに関する学内アンケート調査の結果報告

7月に実施したアンケートの結果を抜粋してご報告します。
お忙しい中、ご回答くださいました先生方に、お礼申し上げます。

なお、本調査はweb上での回答をお願いしましたが、その際、ソフトの不都合でご迷惑をおかけいたしましたこととお詫び申し上げます。

リサーチ・アドミニストレーター：研究機関において、研究者とともに、研究活動を組織として円滑に実施するための業務に従事する者を指します。例えば、公募情報の研究者への提供、申請書作成支援、研究の実施に際して必要な人事、予算管理、経理、報告書作成などがリサーチ・アドミニストレーターの業務として考えられます。（文科省による定義）

調査の目的

外部資金の獲得支援や産学官連携の推進など、従来と比べて、研究者の研究をより効果的に支援するためには、専門性を有する職員の配置の重要性や必要性はますます高まっていると考えられます。

金沢大学では、平成19年度より研究支援専門職員（リサーチ・アドミニストレーター）をフロンティアサイエンス機構に配置し、

実施期間：7月7日～7月22日

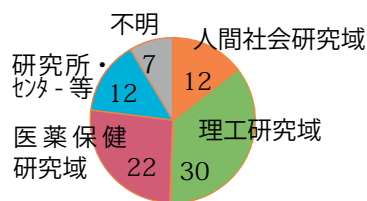
対象：学内の全教員、博士研究員等（1,243名）

回答方法：web上での選択回答および自由記述

回答数：83

回答率：6.7%

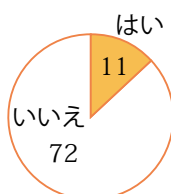
1. 所属



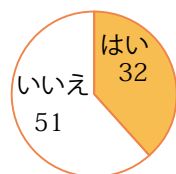
2. 職位

回答項目	人
教授	31
准教授	22
講師	0
助教	21
博士研究員	4
その他	5

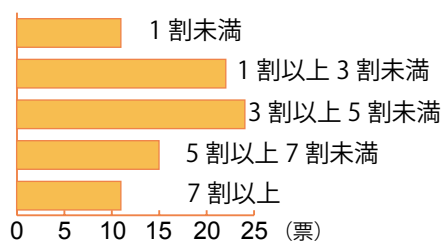
3. 大学の役職に就いていますか（学長、研究所長、センター長、研究科長、学部長、系長、類長、学長補佐等）



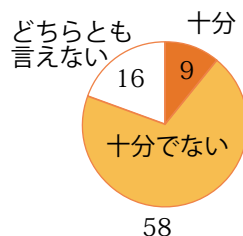
4. (研究者個人ではなく) 機関申請のような大型の研究プロジェクトや異分野の研究者で連携した教育研究プロジェクトに申請する機会や、またはそのようなプロジェクトの運営をすることがありますか。



5. 通年の活動時間のうち、研究活動に充てられる時間の平均的な割合をお答えください。



6. 現在、研究活動に集中できる時間は十分と感じますか

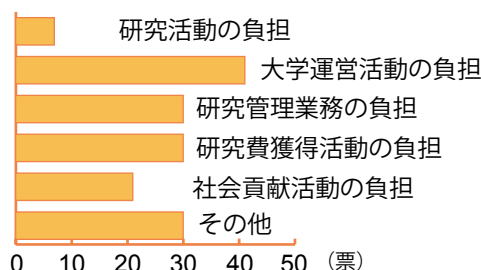


誌面の都合により、質問文章を若干変更しています。

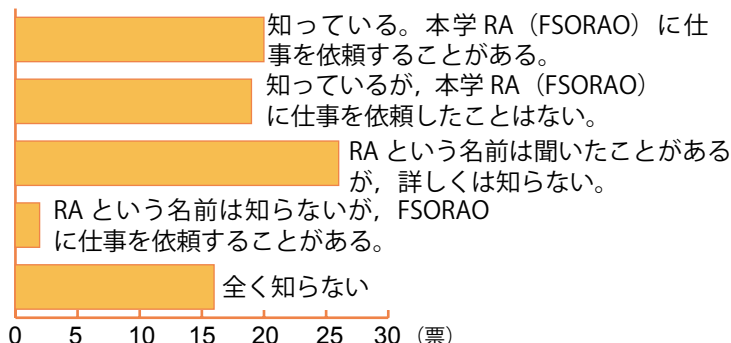
研究支援体制の整備進めてきました。文科省もリサーチ・アドミニストレーターの配置を進めるための事業を今年度から始めました。その事業への申請および、今後のさらなる研究支援体制の充実を図るため、学内の先生方のご意見をお伺いするために、本アンケート調査を実施しました。

以下、リサーチ・アドミニストレーターをRAと表記します。

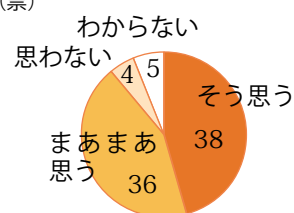
7. <問(6)で十分でないと回答なさった方にお聞きします>研究活動にあてる時間が足りないと感じることの理由をお聞かせください。（複数回答可）



8. RAという言葉や存在、役割などを知っていますか。



9. 文科省の定義によるRAのような研究支援業務を行う者を置くことで、研究時間の確保に繋がると感じますか。また、研究支援業務を行う者が必要だと思いますか。



11. <問(9)において、「そう思う」または「まあまあ思う」とご回答なさった方にお聞きいたします>どのような業務を支援してほしいですか。（複数回答可）

回答項目	票
大型教育研究資金への申請関連業務	50
科研費申請関連業務（例：科研費申請書のチェック、アドバイス等）	43
業務報告書・成果報告書取りまとめ業務（プロジェクト報告や経理報告等）	35
研究成果の発信・広報業務	34
研究戦略立案・企画業務（研究プロジェクトの計画段階における調査・企画業務）	32
FA (JST, JSPS, NEDO など) との交渉・調整業務	31
複数の研究組織間の連絡・調整業務	29
研究プロジェクトにおける資金管理業務	28
知財関連業務	25
安全・倫理関係業務（遺伝子組み換え動物や放射性物質等に関する書類作成等）	24
研究プロジェクトにおける人事管理業務（募集、採用の一次窓口等）	20
その他	11

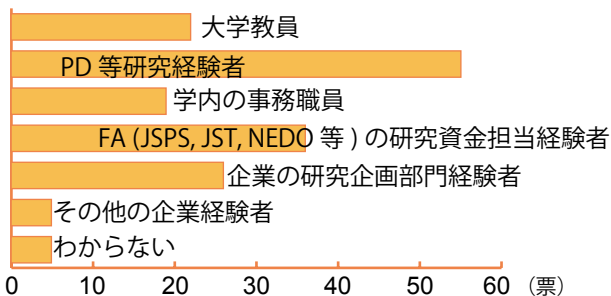
10. <問 (9) において、「思わない」とご回答なされた方にお聞きいたします>「必要ない」と回答した理由をお聞かせください。(複数回答可)

回答項目	票
自分で行える	3
事務部の職員で十分	2
秘書に任せている	0
若手教員等研究室のメンバーがやってくれている	1
産学官連携コーディネーターや TLO 職員のサポートで間に合う	0

12. RA はどこに配置するのがよいと考えますか。(複数回答可)

回答項目	票
本部	17
部局 (域・研究所・センター)	28
部局 (系単位)	30
研究プロジェクトごと	25
研究室ごと	16
イノベーション創成センター	4
わからない	5

13. RA にはどのような人材を採用すべきと考えますか。(複数回答可)



14. RA に研究内容を理解できる専門知識はどの程度必要であると考えますか。

回答項目	票
その分野または隣接分野の博士課程程度	43
その分野または隣接分野の修士課程程度	21
その分野または隣接分野の学士課程程度	8
一般教養程度	4
わからない	3

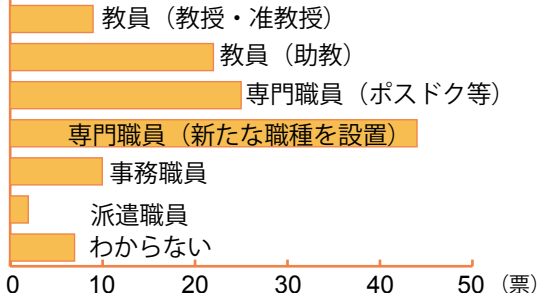
15. RA の任期はどうあるべきと考えますか。

回答項目	票
任期付 (再任なし)	2
任期付 (再任可)	48
任期なし	17
わからない	12

16. RA の昇任はどうあるべきと考えますか。

回答項目	票
昇任ありが望ましい	47
昇任はなくてもよいのでは	19
わからない	13

17. RA の雇用形態はどうあるべきと考えますか。(複数回答可)



18. RA の雇用原資はどのようなものが適切だと考えますか。(複数回答可)

回答項目	票
研究プロジェクトの直接経費	18
部局に配分された資金 (研究プロジェクトの間接経費や期間的経費 (運営費交付金等))	34
本部の調整による資金 (研究プロジェクトの間接経費や期間的経費 (運営費交付金等))	46
RA 雇用のための政府からの外部資金	43
わからない	6

自由記述

- 既にある大型機器の管理、及びそれを利用して出したデータの質に責任を持つポストを創出してほしい。
- 外部資金申請以前に、研究者支援について十分意見交換すべきである。
- 現在の日本には RA を養成する仕組みが無く、地位もハッキリしていない。そのため、この様な制度ができて優秀な人材がいいると考えられる。
- 研究以外の雑務が多すぎる。研究活動に専念できる環境作りを働きかけてほしい。
- 会議と書類作成業務の軽減を望む。
- 本学は、教員に、学部専門教育、大学院、教養 (導入) 教育、大学管理運営、社会貢献、広報等、全ての活動を求めている、それで空いた時間があれば研究でもしてください、という印象。特に、教育負担は欧米では考えられないほど重い (学部重視型教育のせいだろうが)。研究活動の現状を克服するには、研究員や研究支援補助員の増員が必須。半端な物はいらないので、その分とにかく人が欲しい。
- 大学の使命を果たすためには、全学の研究教育を俯瞰的に眺める必要がある。そのためには、全構成員の研究活動を把握している者が是非必要である。
- 本学でマイナーな分野の研究者にも積極的な研究支援をお願いしたい。
- 文科省の情報に目を光らせるだけでなく、文科省への提案を考えて行けるセクションも持つ。
- アメリカの NIH では研究者のキャリアパスとして、行政的な業務に移ることがあるので教員の一部を転用できる体制を考える必要がある。
- RA の必要性／重要性はこれから高まるであろう。新たな専門職員と位置づけ、ポスドク等の研究経験者に対して特別な教育 (研修) を施して養成すべきである。配置も、現在のように FSO 集中のみではダメで、部局 (理想的には系ごと) にも必要である。各分野ごとに様々な事情があり、RA もその個々の事情に精通すべきであるから。
- 自分の研究分野と適度に離れつつも、専門知識のある方に客観的な意見を言ってもらえるのは、勉強になった。現行では、部局ごとにアドバイザーの先生はおられますが、やはり本職が忙しく、他のラボの科研費の申請書を、じっくり査読する時間を設けるのは大変だと思う。金沢大学として、そういう RA を専門職とする部署があれば、こちらもあまり躊躇なくお願いできる。大型予算に限らず、民間の小さな研究助成などにも頻繁に申請しているが、小さなグラントでも、第三者に査読して頂ければ、採択される可能性は上がると思う。
- 大変お世話になっているので、機能強化を図ってほしい。

研究時間が少なくなっている事実に対し、先生方は上記のように様々な希望を持っていることが明らかとなりました。また、学内における RA の認識の現状とそれに対するご意見を伺うことができました。

「研究支援」という言葉は極めて広い意味を持ち、現体制でも研究支援を担当する部署は多々有ります。そのなかで、金沢大学としては、研究戦略、外部資金獲得支援、プロジェクトマネジメントを軸に支援体制の充実を図る計画です。

会議等の負担軽減については、大学運営対施の抜本的見直しを要するため、時間が相当かかります。FSO としては、できることから、支援の充実を進めます。

なお、文科省事業「リサーチ・アドミニストレータを育成・確保するシステムの整備 (システム整備)」に金沢大学の提案が採択されました。こうした経費も活用しながら、イノベーション創成センターと連携してこれまで研究戦略、研究推進、産学官連携・知的財産管理に加え、IR (Institutional Research)、プロジェクトマネジメント、産業マーケティング、科学技術コミュニケーションを含む、より複合的・一体的支援システムの構築を目指します。

FSORAO: Frontier Science Organization Research Administration Office (学内組織)

FA: Funding Agency (資金配分機関)

JST: Japan Science and Technology Agency (科学技術振興機構)

JSPS: Japan Society for the Promotion of Science (日本学術振興会)

NEDO: New Energy and Industrial Technology Development Organization (新エネルギー・産業技術総合開発機構)

NIH: National Institutes of Health (アメリカ国立衛生研究所)